

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業   
  経常事務事業   
  建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連

有  
 無

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	桶狭間古戦場まつり開催事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 兼子 公司
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興			基本施策	観光	コード	3 3 4
	項	「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			単位施策(中)	イベントの推進	コード	3 3 4 2
		産業振興			単位施策(小)	まつりの充実	コード	3 3 4 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	県内外の人		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	「桶狭間古戦場まつり」が、豊明市の代名詞となっており大勢の観光客で賑わっている。			
1-5 事務事業の内容	三大古戦場のひとつである史跡「桶狭間古戦場」を観光資源として県内外にPRしていくため、桶狭間古戦場まつりを盛大に毎年実施していく。また、愛知県も武将観光に力を入れているので、愛知県とも連携してPRしていきたい。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	桶狭間古戦場まつり実行委員会の各部会との事業内容の調整に取組んだ。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	各部会の役員が高齢化しており、若年層の参加があまりみられないが現状は難しい。	市民ニーズの認識	各部会参加者、地元住民等に対するアンケート調査を実施していない。今後は、できる範囲内で実施して市民ニーズを認識していきたい。
	平成19年度	"	"	"	"	"	"
	平成20年度	"	"	"	"	"	"
	平成21年度						
	平成22年度						
	平成23年度						
	平成24年度						
	平成25年度						
	平成26年度						
平成27年度							

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	桶狭間古戦場まつりの観客数(人)	30,000(人)	30,000(人)	6月の第1土曜日・日曜日に開催される桶狭間古戦場まつり来場者数

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単	28,000(人)	28,000(人)	25,000(人)							
	直接事業費 b(千円)	4,976	5,223	4,783							
	人件費 c(千円)	1,843	1,843	1,843							
	合計コスト d(b+c)(千円)	6,819	7,066	6,626							
単位コスト d/a(千円)	1人当たり 0.2	1人当たり 0.3	1人当たり0.3	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費 市補助金のうち桶狭間古戦場まつりに支出した額

人件費 3月 1人×5日×8h×3,200円=128,000円 4月 1人×12日×8h×3,200円=307,200円 1人×10日×8h×3,200円=256,000円 1人×5日×8h×3,200円=128,000円  
 5月 2人×10日×8h×3,200円=512,000円 1人×5日×8h×3,200円=128,000円 6月 4人×2日×8h×3,200円=204,800円 4人×1日×8h×3,200円=102,400円  
 2人×3日×4h×3,200円=76,800円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	28,000	28,000	25,000							
	後期目標値に対する達成度(%)	93.3	93.3	83.3							

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	A							

- 4段階評価結果
- |                               |       |                                |
|-------------------------------|-------|--------------------------------|
| A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する    | 判断の基準 | 必要性(必要な事務事業であるか)               |
| B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要 |       | 公共性(公が実施する意味があるか)              |
| C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要        |       | 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)             |
| D : 事務事業の廃止が相当                |       | 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)            |
|                               |       | 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)       |
|                               |       | 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか) |

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	地元住民の協力、応援体制が必要となる。		イベントがマンネリ化しないように各部会と事業内容を検討する。
平成19年度	"		武者行列の隊列におんな神輿を加える等マンネリ化にならないよう改めた。	部会と打合せを行い、警備体制の見直しに取り組んだ。
平成20年度	"		武者行列参加者に市外の参加者を増やすため、名古屋まつりブースに出展しPRに努めた。	各部会の事業内容(イベント)を魅力あるものにするよう各部会と検討した。
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			